

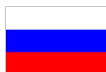
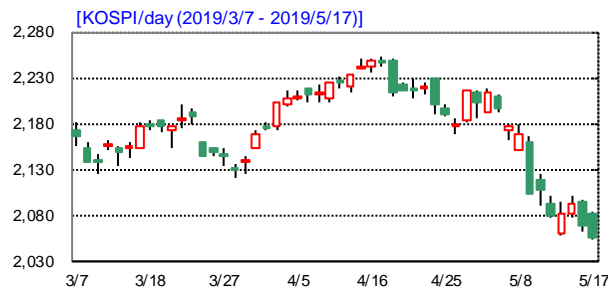


【韓国】 総合指数は週間で2.5%安と続落、2100ポイントを割り込み4カ月ぶり安値

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.5%安と続落した。米中貿易紛争の激化が世界経済に及ぼす悪影響への懸念から相場は軟調に推移した。前週末の米中通商協議が事実上の物別れに終わり、週明け13日は指数が節目の2100ポイントを割り込んだ。14-15日はトランプ米大統領が米中交渉の先行きに楽観的な見通しを示し、買い戻しが入ったものの、週後半の16-17日は続落した。連日で1月上旬以来、約4カ月ぶり安値を更新。中国通信設備大手の華為技術（ファーウェイ）に対し、米商務省が事実上の輸出禁止措置を発令。影響はサプライヤーなどに広く拡散するとみられるため、サムソン電子やSKハイニックスなどハイテク株が売られた。今週も引き続き米中の動きが焦点か。国内では生産者物価や貿易統計の発表が予定されている。

▼指数チャート

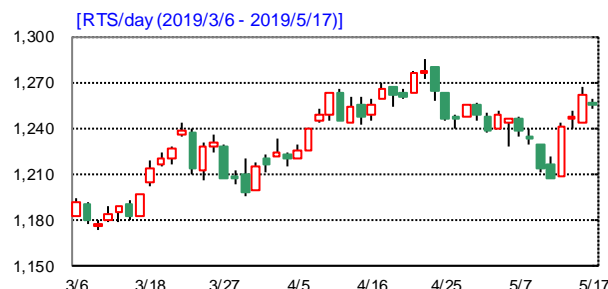


【ロシア】 RTS 指数は3.4%高と大幅反発、今週は原油高一服で相場押し下げか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で3.4%高と大幅反発。貿易摩擦懸念の一部緩和や原油相場の上昇、対ドルでのルーブル上昇などが好感された。週明け13日は米中貿易摩擦の激化が警戒されてリスク回避が強まり、指数は1カ月半ぶりの安値を更新した。しかし、その後は貿易摩擦懸念の緩和や原油相場の上昇、対ドルでのルーブル上昇などを受け、16日まで3日続伸した。中国政府が景気対策を追加するとの観測も株価の後押し材料。17日は反落して終了したものの、週間では大幅反発となった。個別銘柄では、資源のガスプロムが週間で21.6%高となり、指数を押し上げた。経営陣が2018年度の配当を大幅に引き上げると発表し、14日に前日比16.4%高と急騰した。今週は高値警戒感で原油高が一服すれば、株式相場の押し下げ要因か。

▼指数チャート



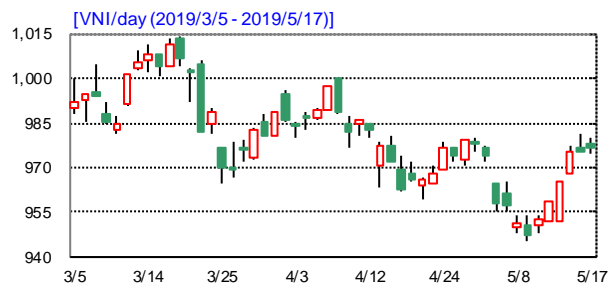
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.5%高と3週ぶり反発、今週は神経質な展開

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.5%高と3週ぶりに反発。東南アジア市場が総じて軟調となる中、ベトナムが米中貿易戦争で恩恵を受けるとの期待で堅調に推移した。週明け13日は米中貿易協議への懸念で東南アジアの多くの市場が下落するのを横目に公益株、テクノロジー株が上昇し、VN 指数は0.6%高。米中貿易摩擦の激化で中国企業のベトナムへの移転が進みや、不動産開発需要の増加などベトナム経済にポジティブに働くとの見方が広がった。こうした思惑を背景に資金流入が続き、指数は前週の10日から6日営業日続伸した。個別銘柄ではビナミルク(4.2%高)、ビンググループ(3.7%高)、ビンホームズ(3.2%高)など時価総額上位銘柄の上昇が指数を押し上げた。今週は米中貿易問題の行方をにらみ、神経質な展開か。

▼指数チャート



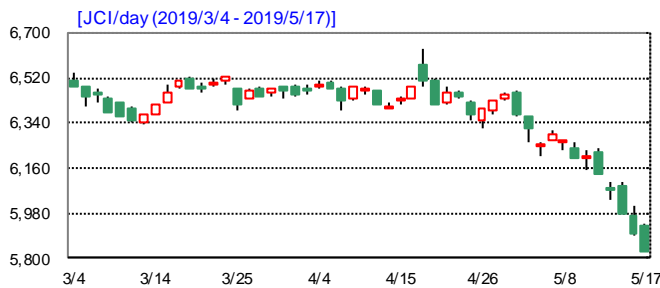


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 6.2%安、4月の貿易赤字は過去最大の25億米ドル

ジャカルタ総合指数は週間で6.2%安と4週続落。深刻化する米中貿易摩擦が指数を大きく押し下げ、週初から5日続落と低迷した。13日に前営業日比1.2%安と反落すると、14日は中国が米国からの600億ドル分の輸入品に対する関税を6月1日付で引き上げる方針を発表した影響でさらに1.0%安と続落。15日は4月の貿易赤字が25億米ドルと過去最高額に膨らんだことで売られ、指数は終値で前日比1.5%安と節目の6000ポイントを割り込んだ。16日は前日比1.4%安、17日は1.2%安と下値を広げ、約6カ月ぶりの安値を更新して引けた。今週も貿易問題を巡る米中の駆け引きが株式相場を左右する展開か。

▼指数チャート

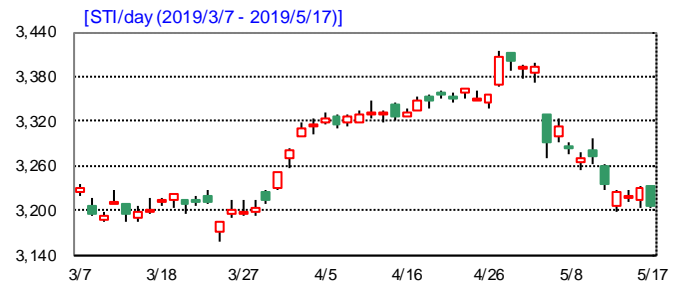


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.1%安、今週は1-3月期のGDP確定値に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で2.1%安と続落。週初に反落すると、その後もさえない値動きが続いた。13日は金融株と消費関連株が下げを主導し、指数は前営業日比1.2%安。15日まで3日続落したが、16日はテクノロジー株を中心に買い戻されて反発した。ただ、17日は4月の非石油地場輸出がエレクトロニクス部門の低迷で前年同月比10.0%減と市場予想から下振れた影響で反落している。今週は21日に1-3月期のGDP確定値、23日に4月のCPI、24日に4月の鉱工業生産が発表される予定。前年同期比のGDP成長率が速報値の1.3%を上回れば好材料。20日はベサックデー（釈迦誕生祭）のため休場。

▼指数チャート

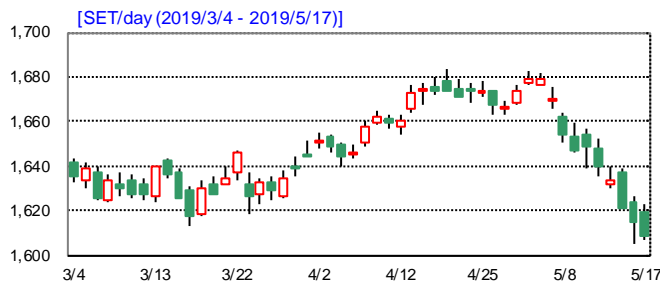


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は 2.5%安、今週は1-3月期のGDPと4月の貿易統計が焦点

SET指数は週間で2.5%安と続落。国内の経済イベントが少ない中、じりじりと下値を広げた。週初の13日は米中貿易摩擦の激化に対する懸念から指数は反落。その後も中国が米国に対する報復関税措置を決めたことや米商務省が中国通信機器の華為技術向けの輸出規制に乗り出した動きが嫌気され、17日まで5日続落した。先週はサウジアラビアの石油タンカーとパイプラインが相次いで攻撃を受け、原油価格が上昇したものの、指数の下げ止まりにはつながらなかった。今週は21日に1-3月期のGDP、22日に4月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。20日はウィサカブーチャ（仏誕節）のため休場。

▼指数チャート

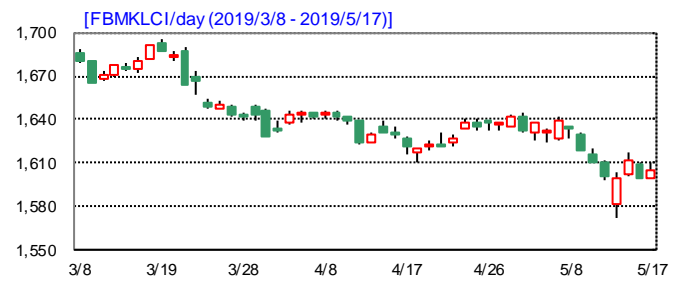


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.3%安、14日の終値は1600ポイント割れ

クアラルンプール総合指数は週間で0.3%安と3週続落。不安定な値動きが続いた。週初の13日は世界的な株安を背景に4営業日続落。14日は終値で3年8カ月ぶりに節目の1600ポイントを割り込んだが、15日は6営業日ぶりに反発した。16日は1-3月期のGDPが前年同期比4.5%増と市場予想から上振れたものの、引け際に売りが出て反落。ただ、17日は売られ過ぎとの見方から国内投資家を中心に買い戻す動きが広がり、反発した。今週は24日に4月のCPIが発表される予定。先週に続き1600ポイントを挟んでもみ合いが続く展開か。20日は釈迦誕生祭の振替休日、22日はコーラン啓示の日のため休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。